



算法童子問卷之三 目錄



- 一 大石のちりごとふる
- 二 寸尺ちりざる 忒教とある
- 三 茶臼乃堂と和半
- 四 香木張とある
- 五 空瓶のものゝ落とある
- 六 ほうものゝ落とある
- 七 かくとある

八 新撰倍書乃る

九 田規田とまざる約法

十 田規角と生ずる約法

十一 永錢總後九六百乃る

十二 良勝省勝乃る

十三 田又勝乃る

十四 そ式参代字乃る

十五 十等三等乃る

算法童子同卷之三

それ輪換乃る字と一絲の力以備て千約の
かりを轉する秘機あるといふ今その
算家帰除の術よりすそあるも算教の及
ざる所はる皆人乃心巧小なり又算家
ありもあらず

一 大石のなりと知る

ある人太極石の形を海上に運送すけるの
ともさや同

舟人の曰ふの如く是水さの形を刻て記し



引くは其のむくもの重さぬえうふ是うすの
あつことかかー

四 番 木 ぬ き や け る 事

あふ木ありきこころ修まむと直して曲けり
重さ百目なり是れ人別ふさやけける法を問

答曰二人は切らるゝ木ぬきとけりとい
とけりものゝ乃そて修き平等の事とさるゝ
善又とつめりせらぬふ切らる時いたふと物
時い修むるさるゝ重さ毛くその重さから修む
修り木の一方と修てすゝゝ木さるゝさるゝ

あふ切のさるゝ法は合せとるを修むその修の
けさる方のされ木さるゝさるゝありあり方さ
さるゝさるゝとさるゝとさるゝ合せ切りあふ
又さる切けりさるゝ木さるゝさるゝ木の一方さ
修ぬけりすゝゝ百目とありてつり合せさるゝ
修さるゝ二目とさるゝ一方は半目とさるゝ半目
修ぬけりさるゝ二目とさるゝ半目とさるゝ半目
の修さるゝさるゝ二目とさるゝ半目とさるゝ半目
ものゝ修さるゝのさるゝ修さるゝ

五 突 形 の り の 事

突形の陰えん又ハ紅かみ面めんおどろ落おぬち時ときその寸つ人ひと祥しやうヲ
 知しるる一一むやうのりのりのの苗めうを金きん術じゆつを同

答曰その呉船の大小とあるごとく角へハル寸
 口方ありハ厚紙ハ寸口方ハその呉船と急ぐれ是
 とありぬれ秤えんりふりけて重目おもひとありハ寸口方
 ハ寸口寸口口方とて厚紙の重目と口割くちわり是と
 角一枚の重目とすたとハ角一枚の重目一分
 一とありぬれその重目二分を重むハ角二枚と
 角あり

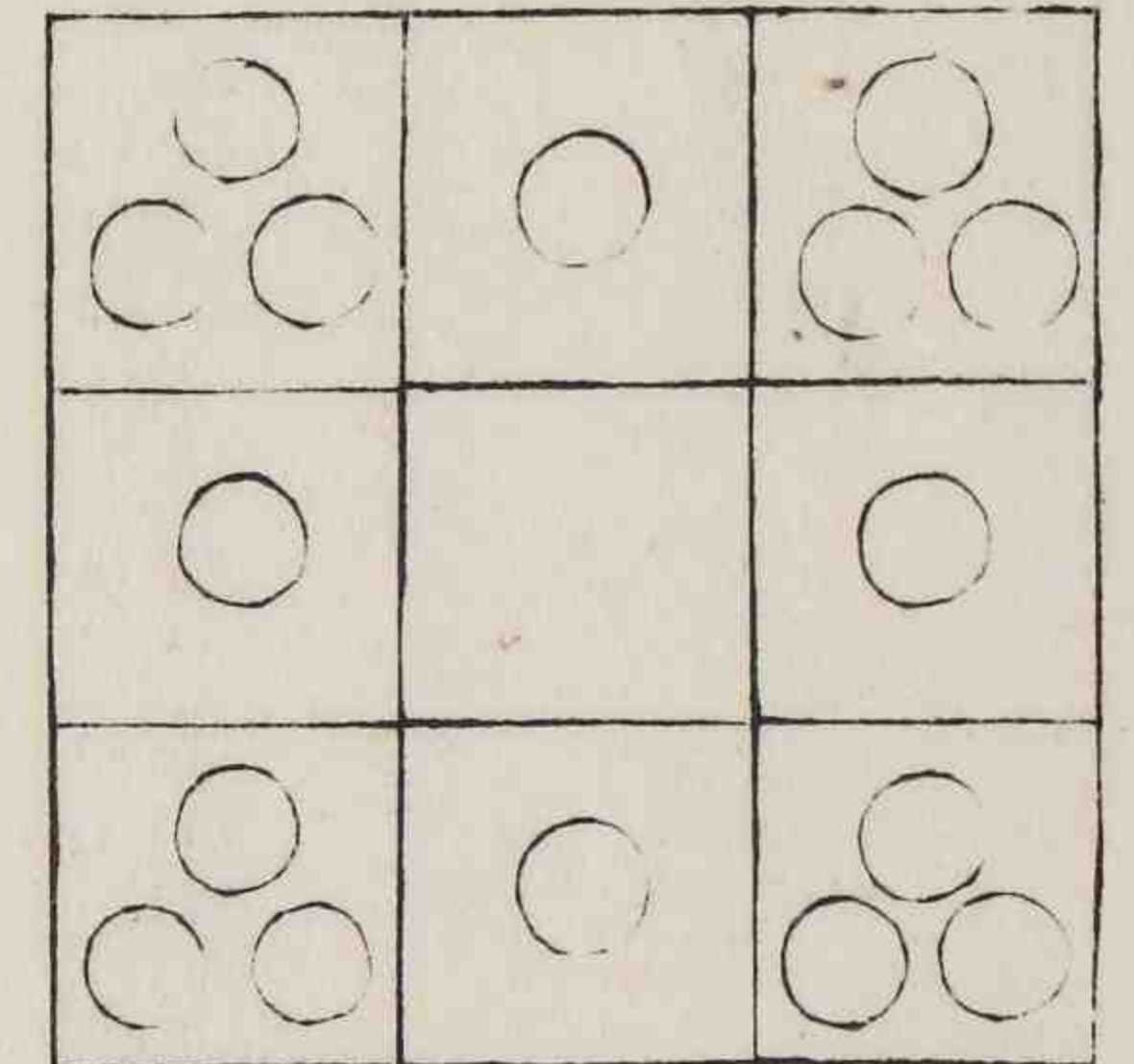
六 雕うさ抽あエう荷へとと金きん

禽獸の類こゝにいざやなりて、
 病を主病と向

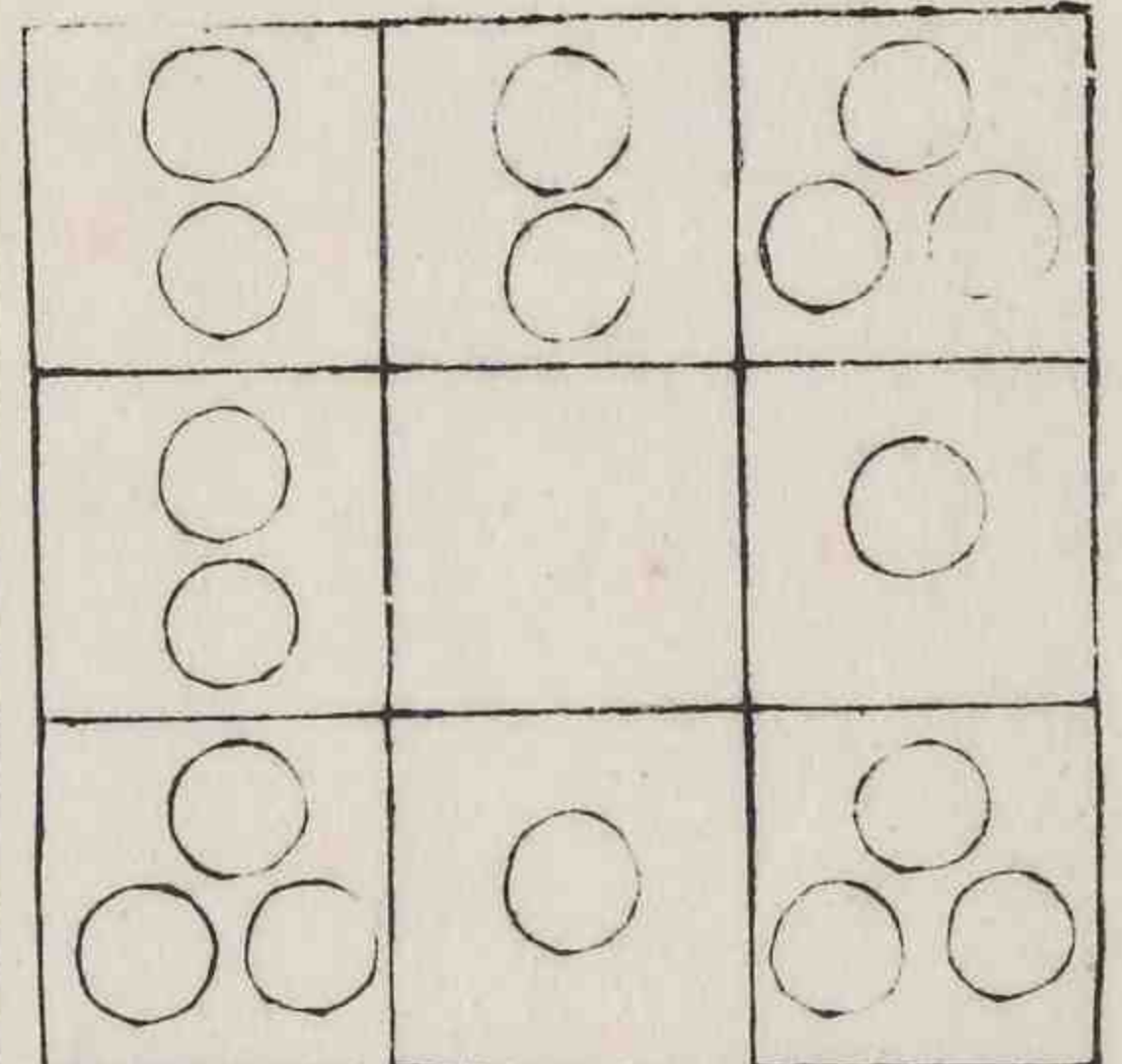
答曰まづその彫物小糊のりをぬり芥子の油あぶらを
 以て目塗りしちやまの糊小振付うづらて飾りし
 芥子の油と瓜うりとちやまの油と芥子の
 かりと油とをこし別べつ々々あつちやまの器うつわに芥子
 を入しちやまの油と瓜うりとちやまの油と芥子の
 そのまゝに瓜うりとちやまの油と芥子のまゝに油あ
 とちやまの油と瓜うりとちやまの油と芥子のまゝに油あ
 水みづを少し加へて煮いくくちやまの油と芥子のまゝに油あ
 水みづを少し加へて煮いくくちやまの油と芥子のまゝに油あ
 水みづを少し加へて煮いくくちやまの油と芥子のまゝに油あ
 水みづを少し加へて煮いくくちやまの油と芥子のまゝに油あ

局一 弟

七 あくまのり

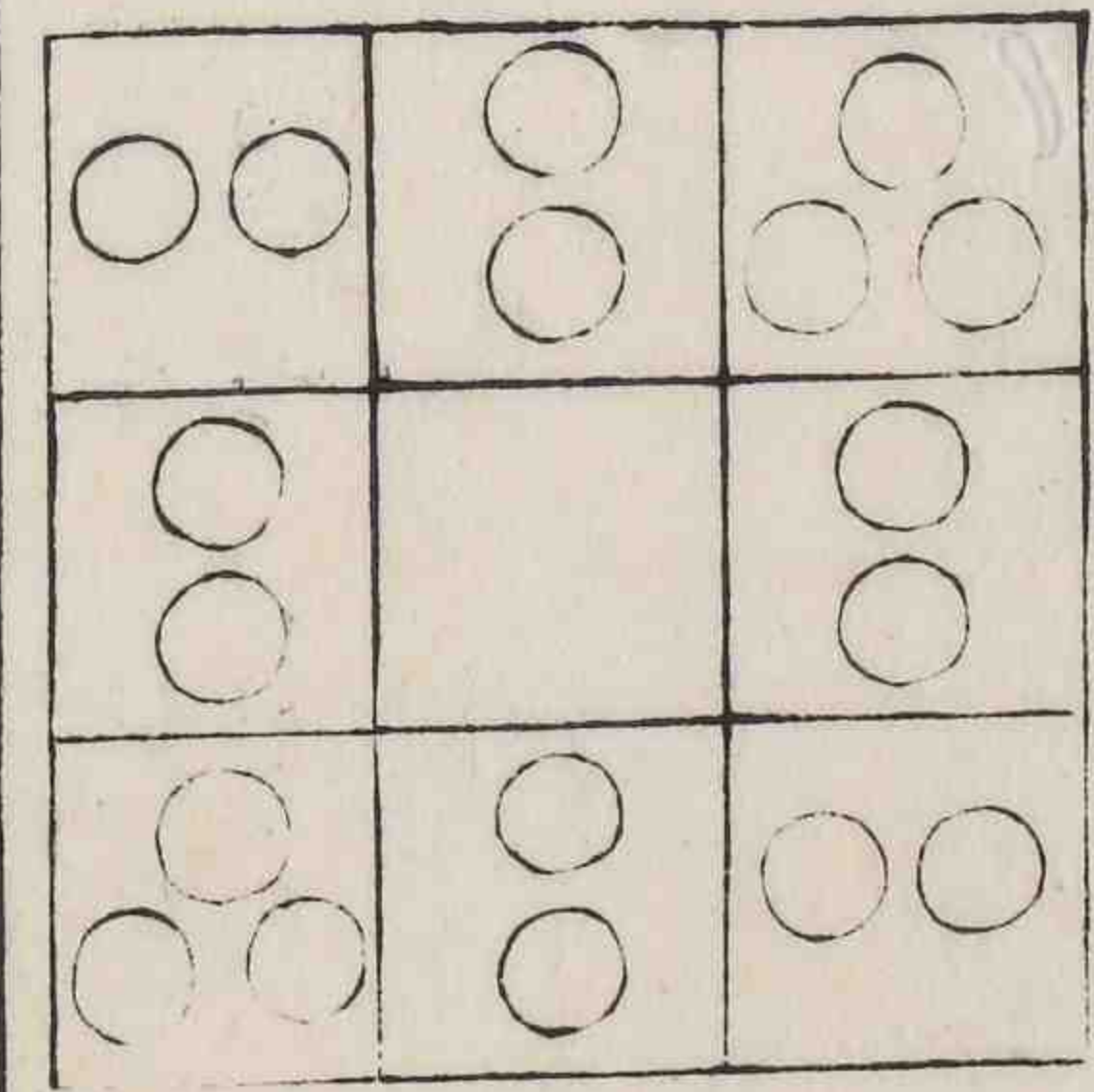


二局



一増 劫 十七

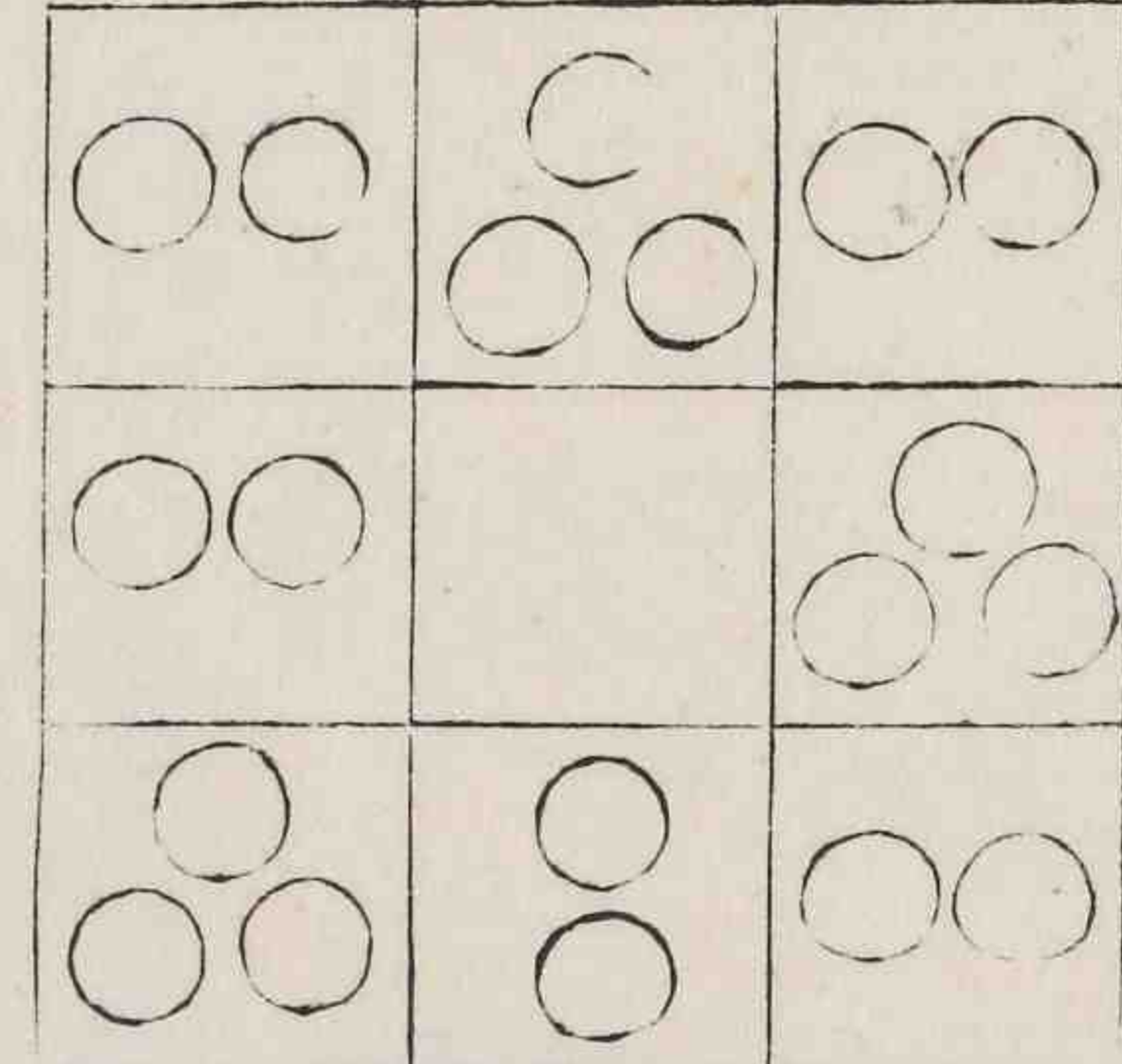
三局



二増 劫 十八

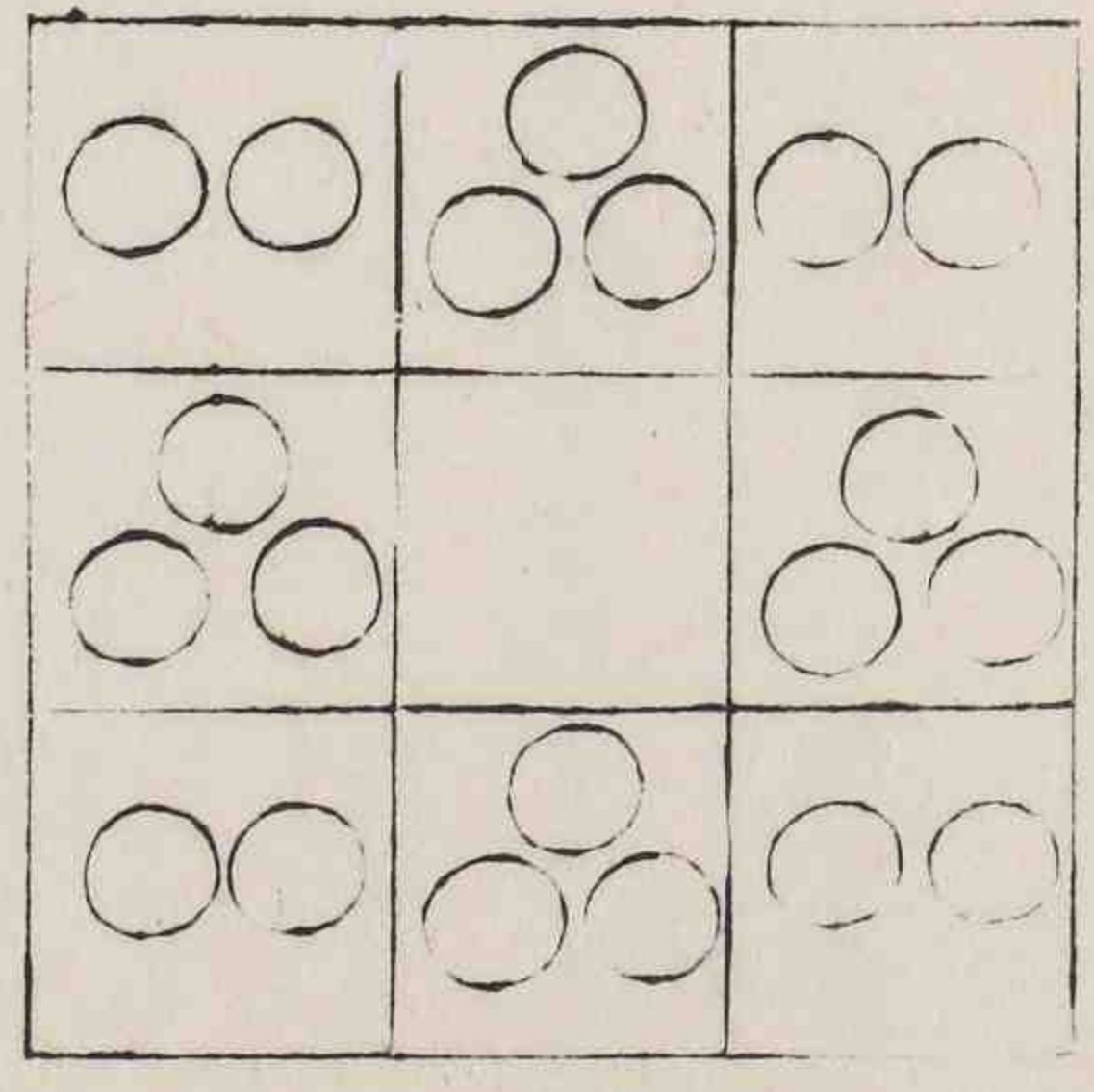
弟一 基本に十を置くのどくろ
 ぶけの縦横にふみてちやうき
 以て三増加するまで加えて縦横
 七をあらわすふあうきうたのど

四局



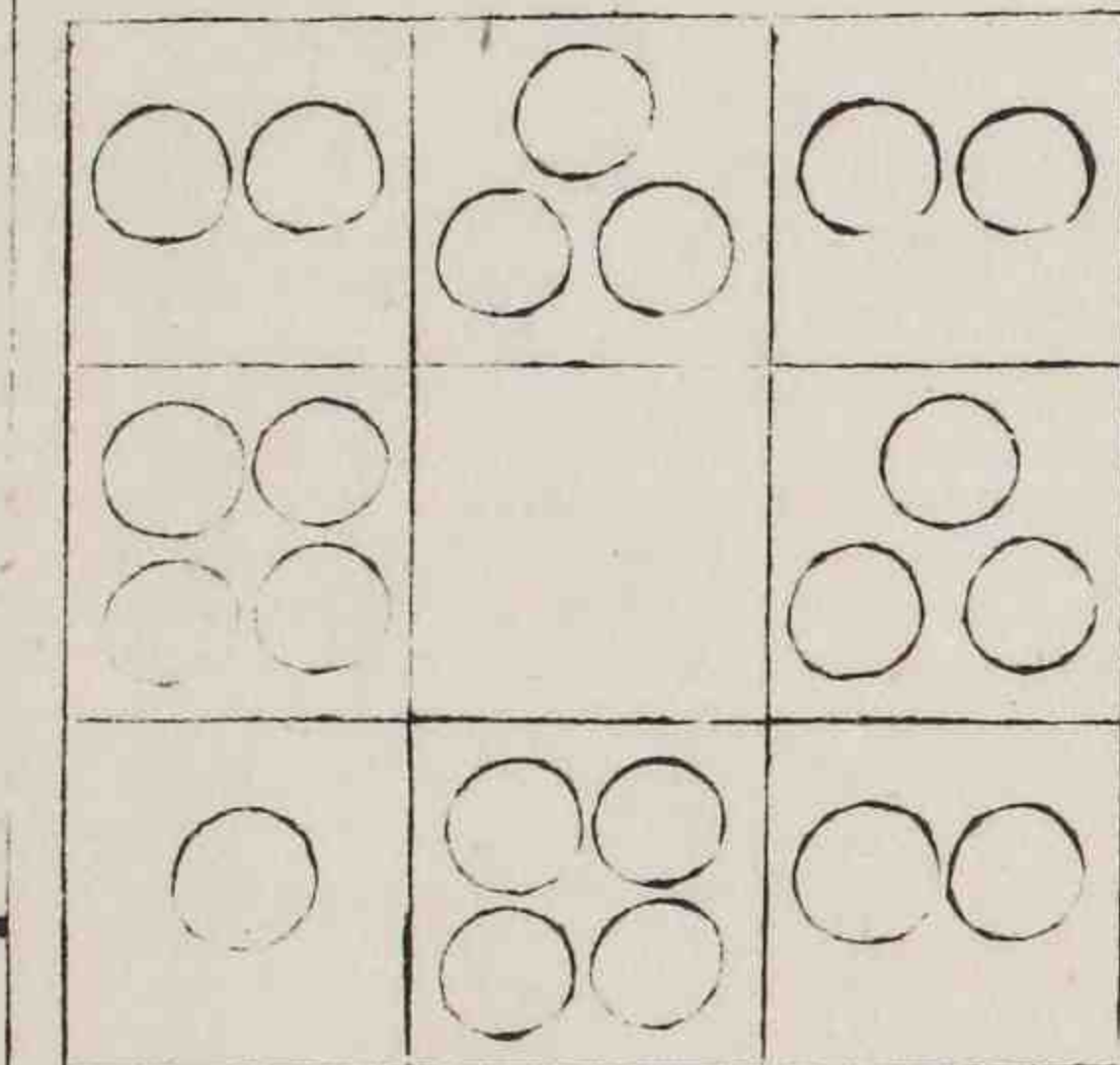
三増 劫 十九

五局



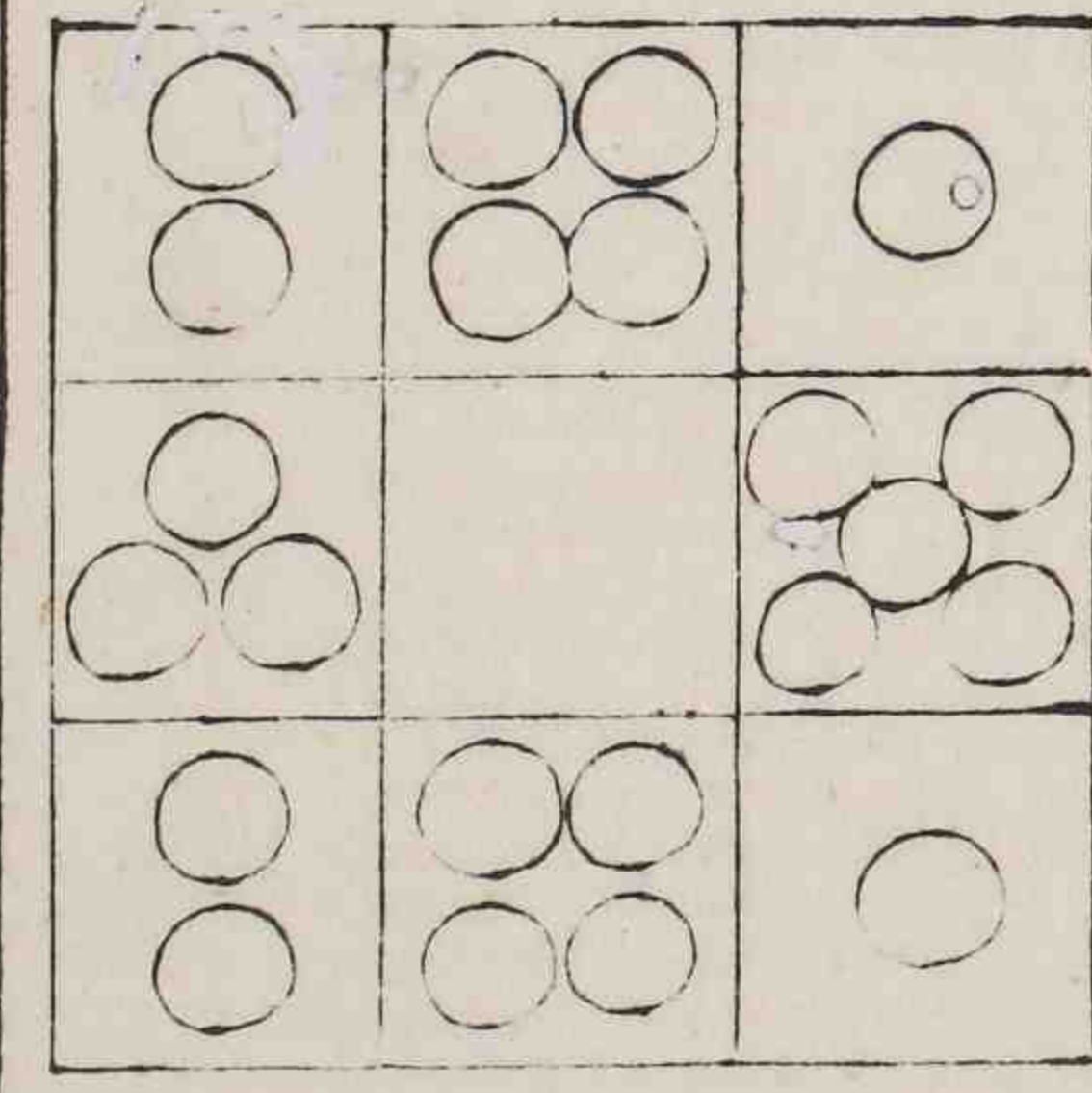
四増 劫 二十

六局



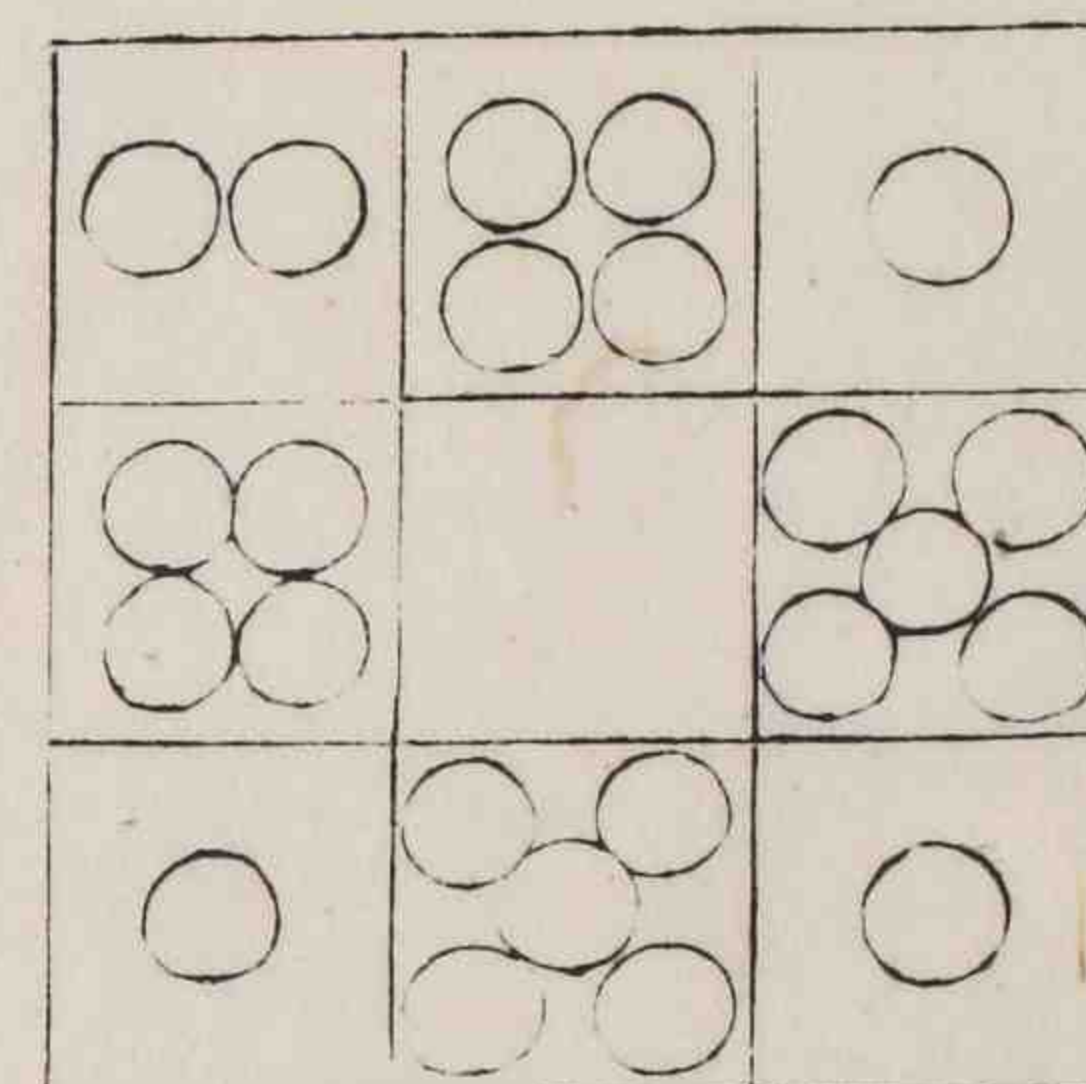
五増 劫 廿一

七局



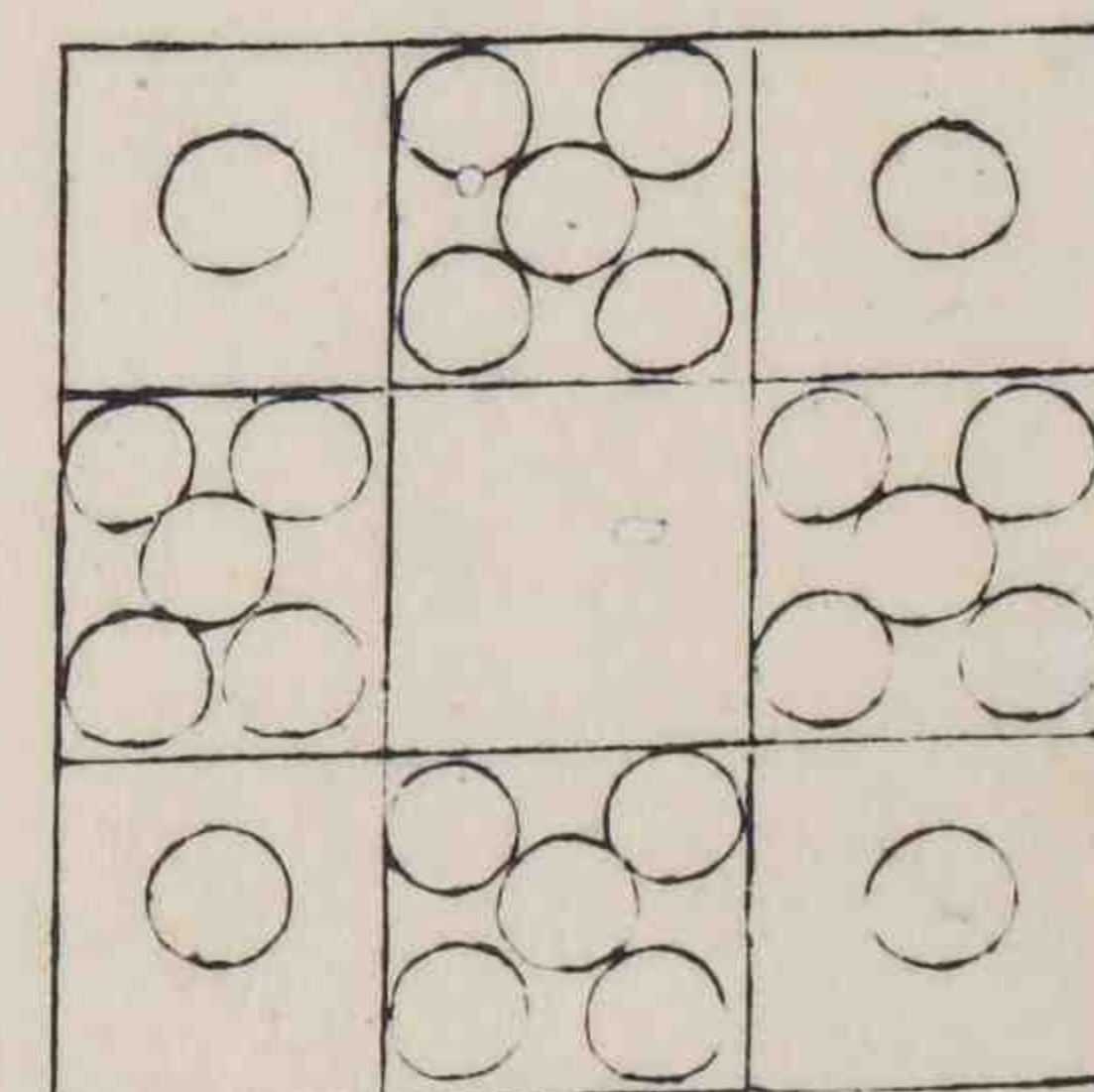
六増 劫 廿二

第八局



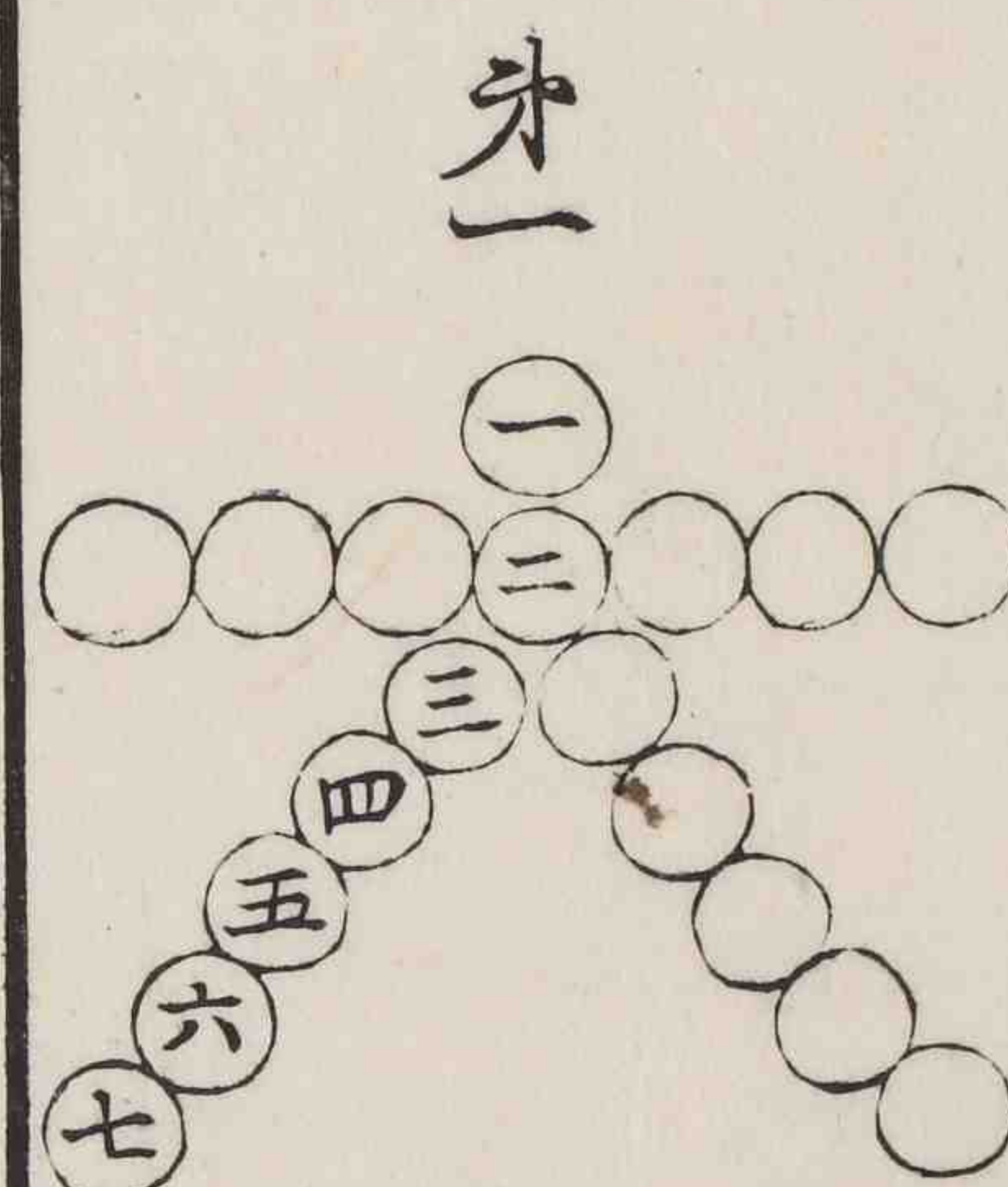
七増
五救
サ三

第九局

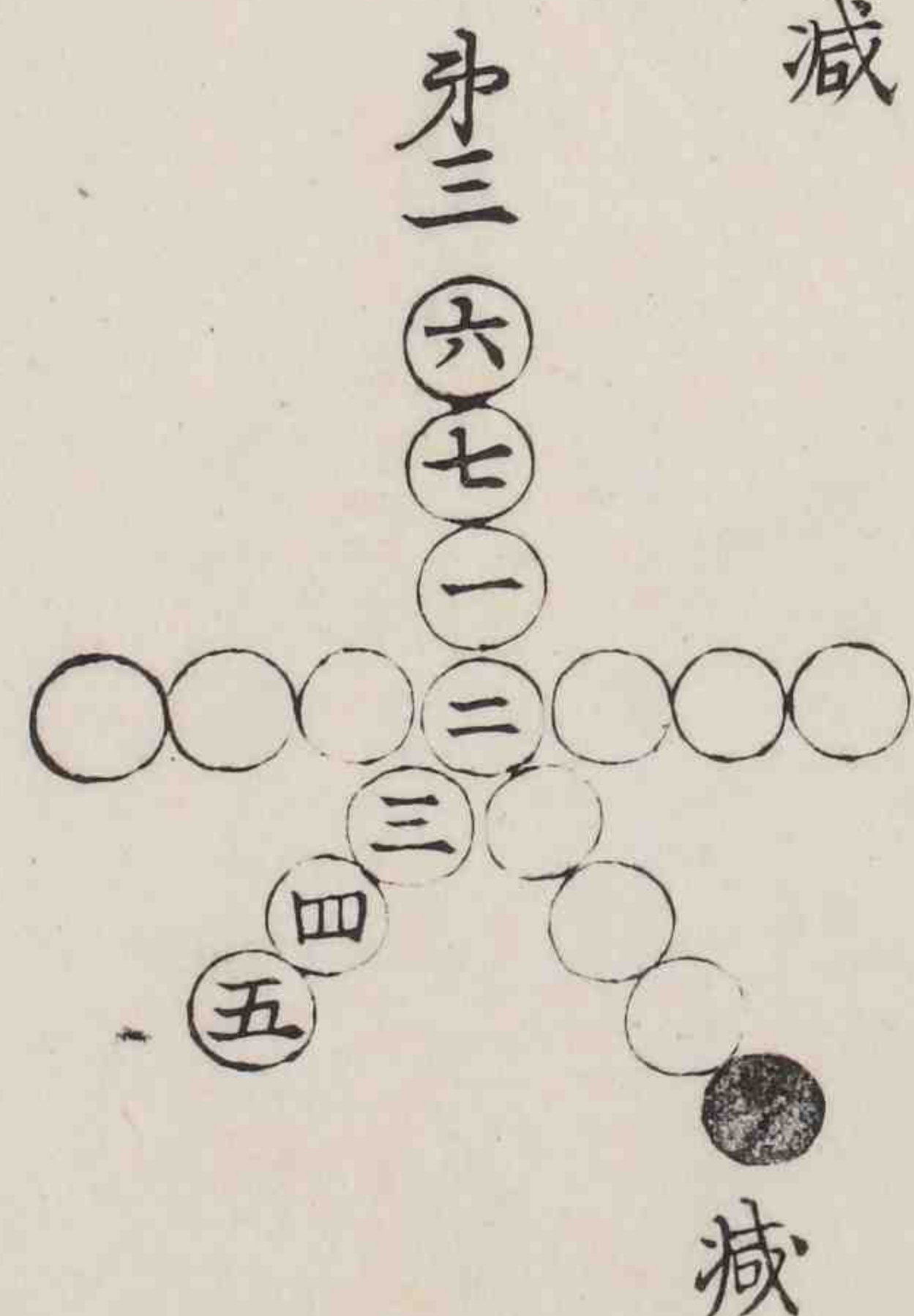
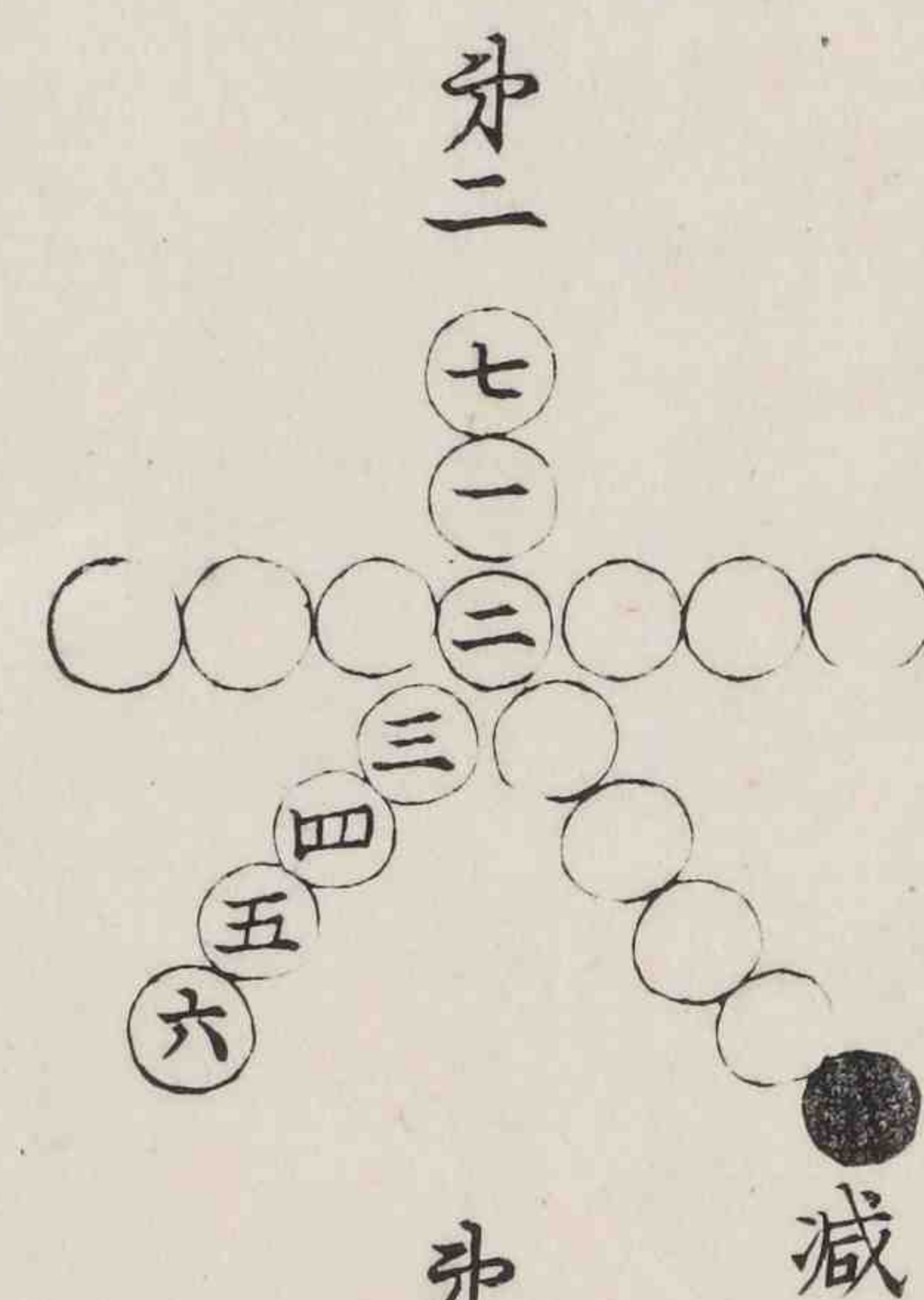


八増
五救
サ四

大文字あゝ魚やゝ



横と右と三方より七
つと是とて減ドて三
とて又七つとあふ



八 新撰活書の事

字方と新撰あゝるて豎横角ちがひとよみくそ救
日救とあるを活書といふけあゝるやうなうへる新と

えては教ふるべき所とあるは如く教ふるべき所
 を示すといふは對換といふは小定術といふは
 甚だむづかしいといふは形撰ハ編めてどうか
 及ぶず番付の通りあるゆへに同教ふべき

三行の圖

上ノ場

一行 二行 三行

一番 一	二	三
二番 四	五	六
三番 七	八	九

わづらひ

一より九まで

あづき

下ノ場

二 三	一 二	三 一
一 二	二 三	三 二
三 二	二 一	一 三

二と角より角へ

至堅横中の

通る三三と至

洲の場乃内二三と上上の場乃ゆきて二番目ノ三行
 ありては如くある○主次下場の三と上上の三
 番目一行ありては如くある○主次下場の二と上
 上の一番目の二行ある二と上上の三とありては
 番付の通りあるゆへに

六 七	二
一 五	九
八 三	四

わづらひ 堅横及び

すこぢいひよみとも皆

すめりてありぬなり

四行の圖

一行	二行	三行	四行
一番	一	二	三
二番	五	六	七
三番	九	十	十一
四番	十三	十四	十五

四	三	二	一
四	三	二	一
三	二	一	四
二	一	四	三
一	四	三	二

下の番乃番付とて上の番乃番付とあつて

あつて

横及び角遠

よみくさく

木四あつて

一二三四四方

わづらひ

中央小初

後のはと

あつて

五行の図

一行	二行	三行	四行	五行
一	一	二	三	四
二	六	七	八	九
三	十一	十二	十三	十四
四	十六	十七	十八	十九
五	廿一	廿二	廿三	廿四

三	四	五	一	二
四	五	一	二	三
五	一	二	三	四
一	二	三	四	五
二	三	四	五	一

隅より隅

小三を

縦横中

乃通り

一二三

と

下の番乃番付と見て上の番乃番付とあつて

廿	二十	廿一	二	八
十	十一	十七	廿三	四
一	七	十三	十九	廿五
廿三	九	十五	廿一	六
六	廿五	五	六	十二

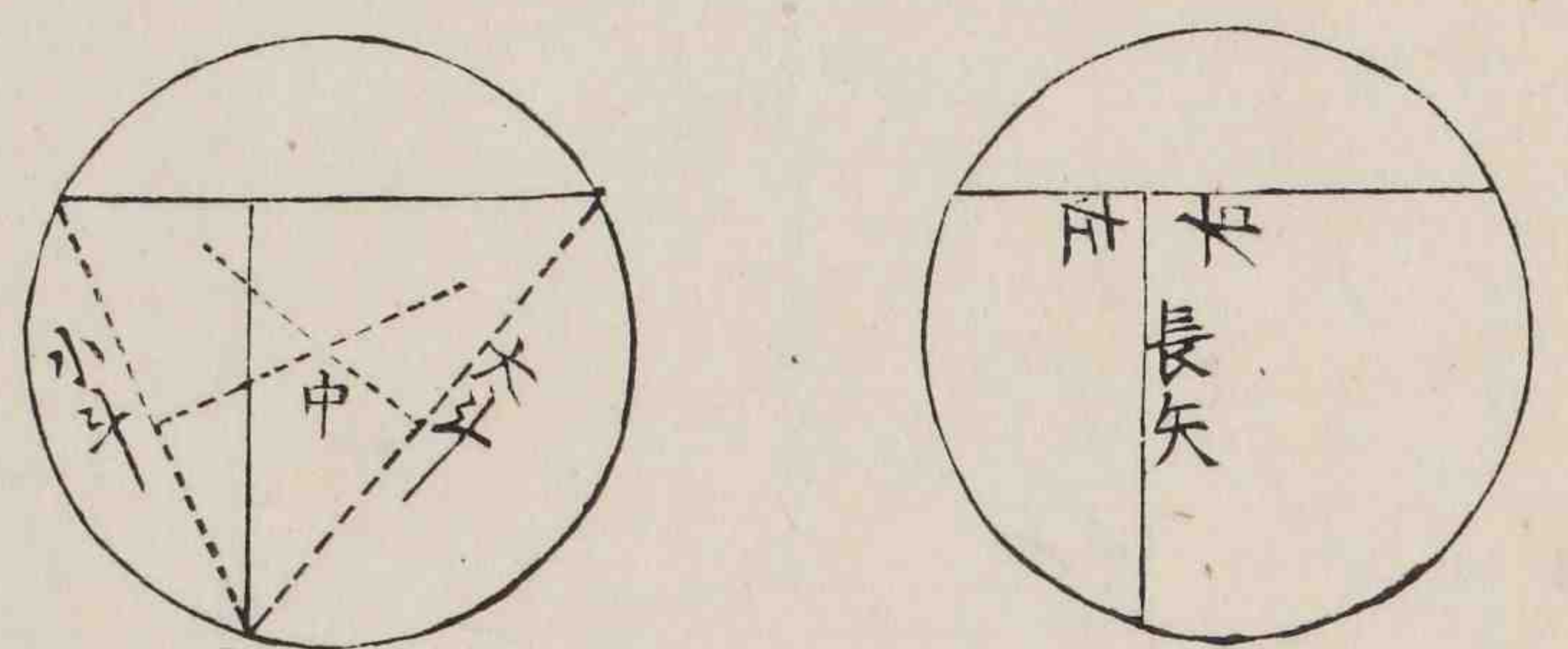
かくのうとく縦横のび
すこちがひよみて各
ちよふつとちよふあり

下の書乃おとべやういすく定法か奇数偶数定格
と考へ知べしたとくいふおとべやういすく大書の教
小書の教よりくすめりておとべやういすく大書の教
たのすくゆへ繁多ありて小書の教よりくすめりて

九 田規田を生ずる約法

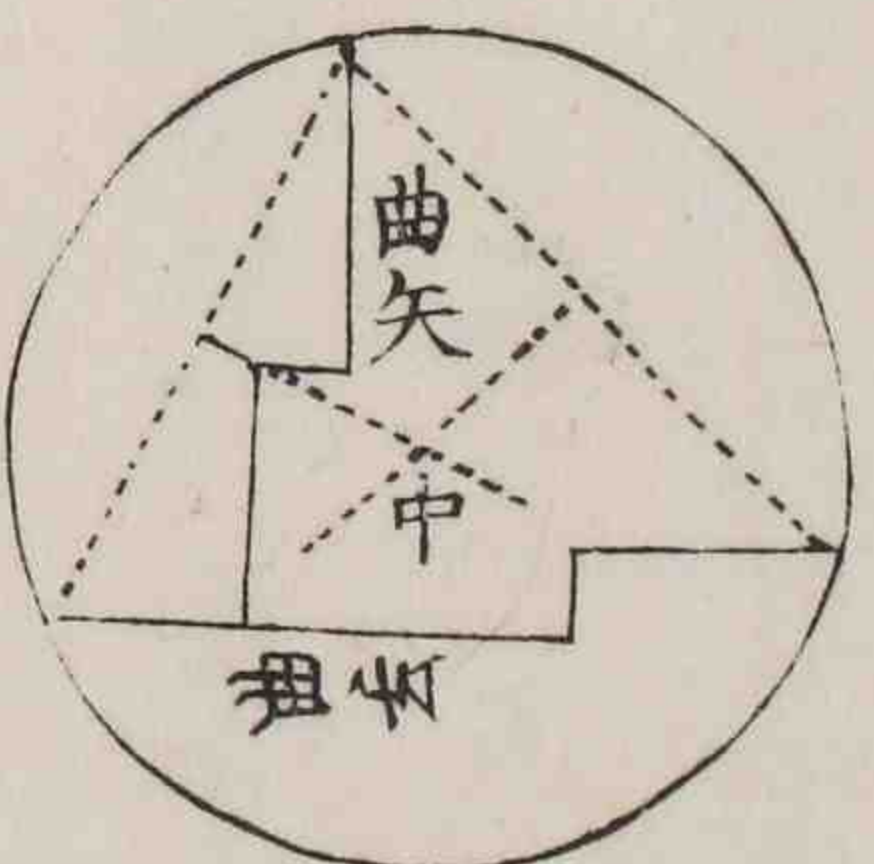
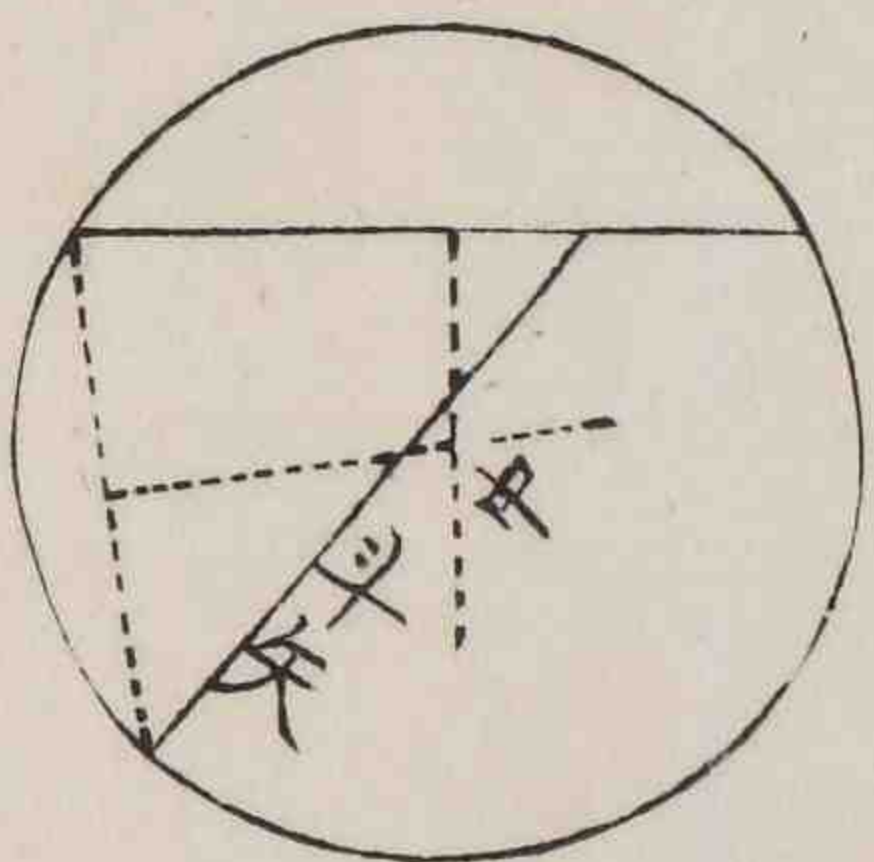
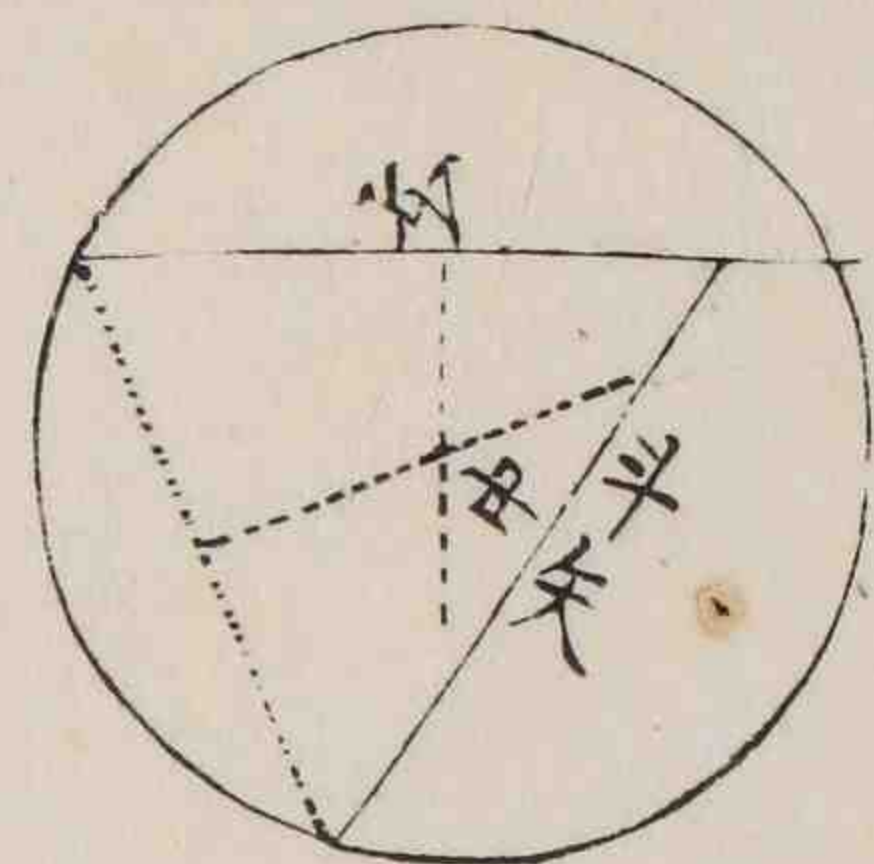
畧のうとく平田わり長矢一スハ寸右弦
一ス寸左弦七寸中てけ田徑と同

答



田規の形といふとあるを右のうとく長矢
はるすめりて畧のうとく長矢より三斜形を
作り大斗の正中より真矩の墨を引又
小斜の正中より真矩の墨を引て墨を
引合て十字の形はるすめりて田の正中より
田規をきく此法の畧端小とくみ合て田周ハ

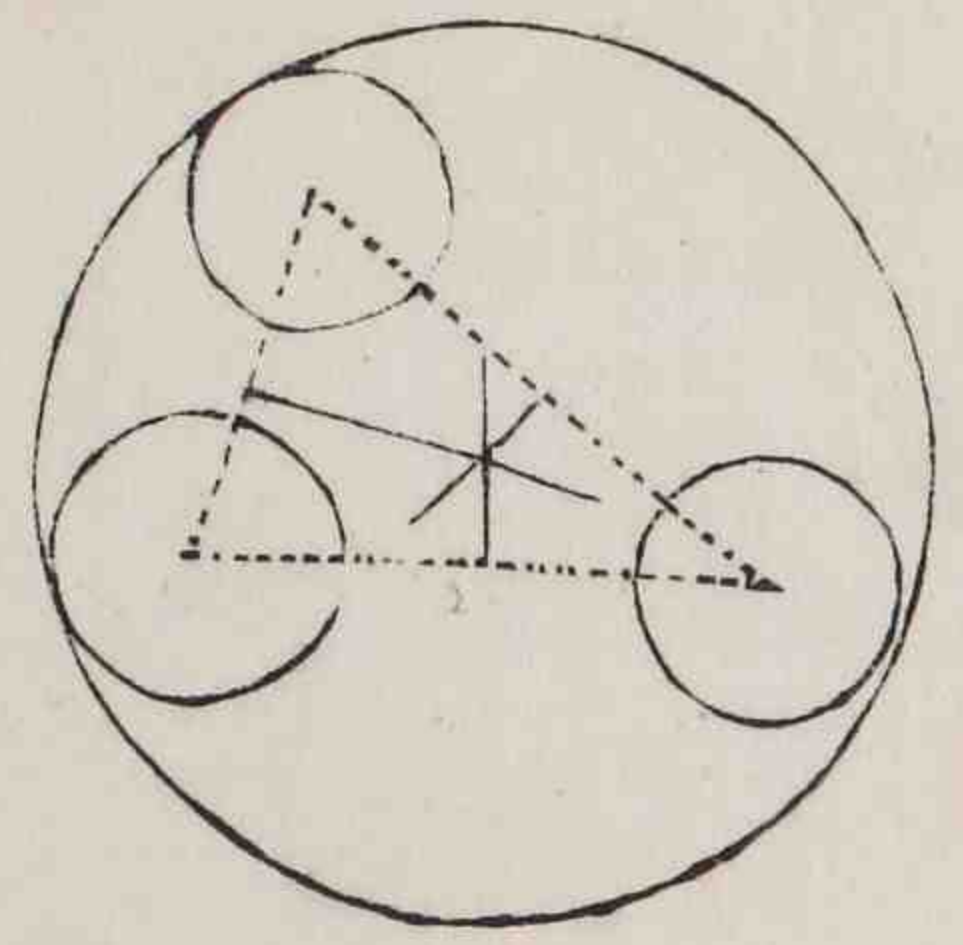
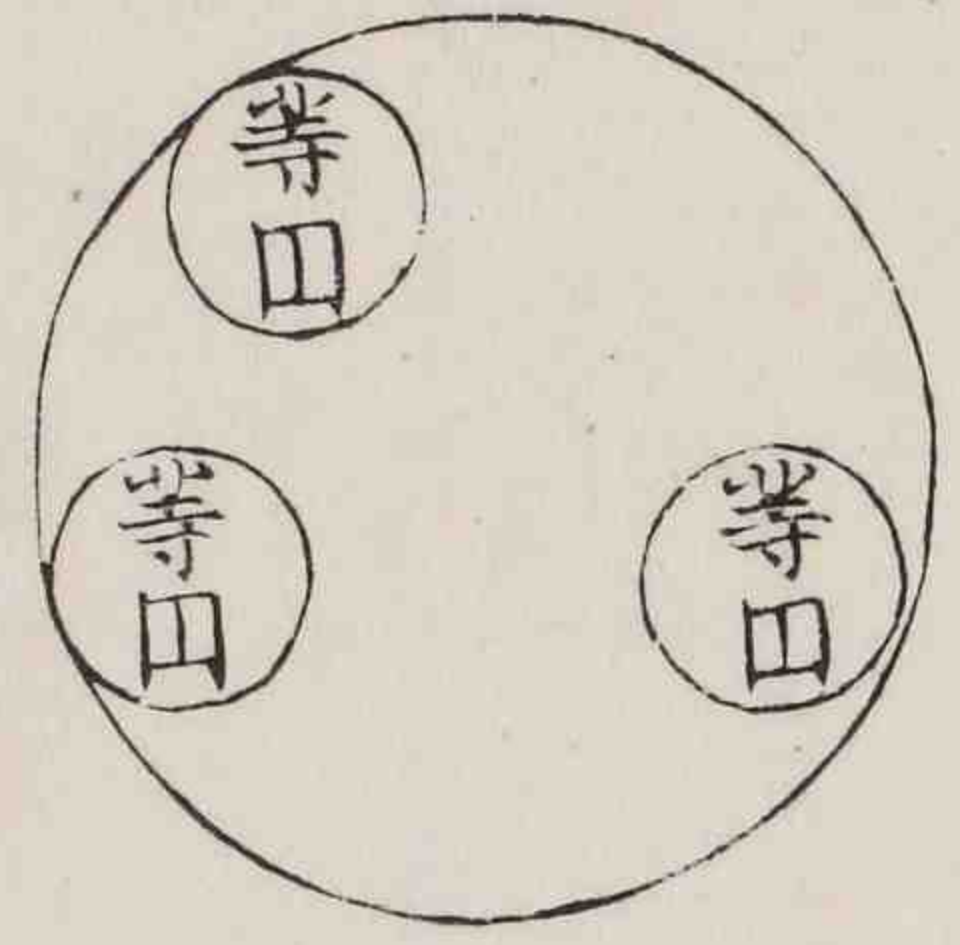
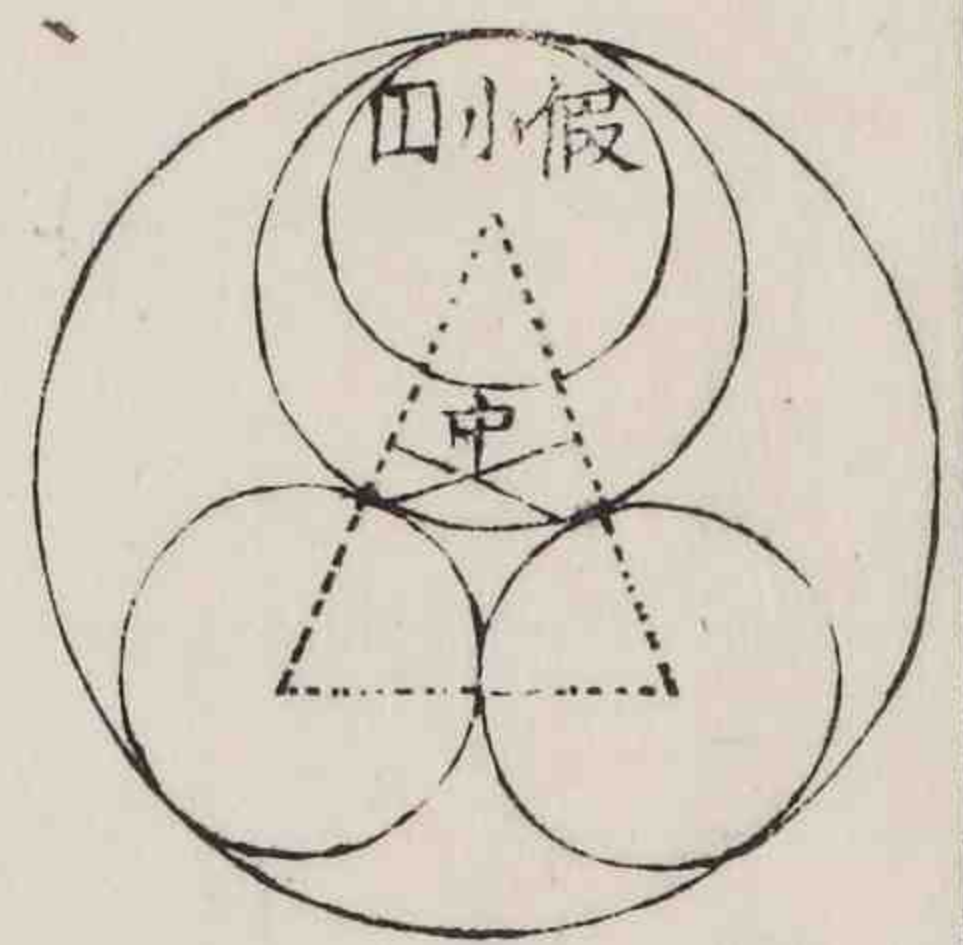
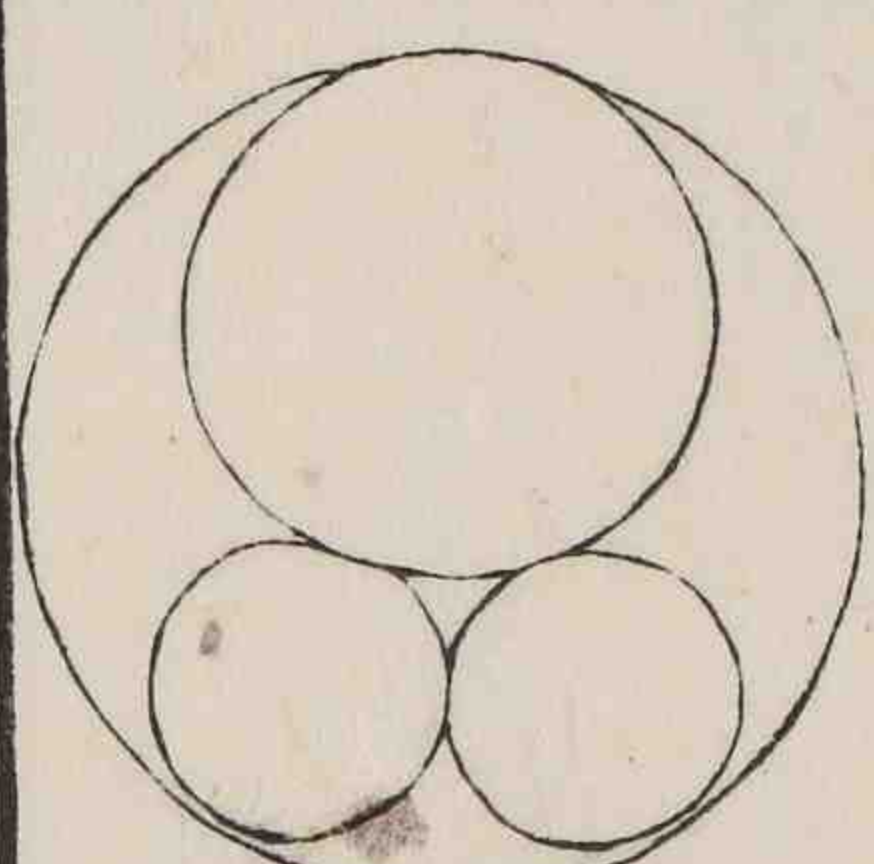
まはせバ田經瓜^{うり}はるこ
 みえあるひは陰矢をさぐ^いひと突^つ飛^ひりて田經と
 同^{おな}もこの形^{かたち}にあ^あるふとく^く知^しるこ



右の三圖とも同^{おな}く保^{たも}つて考^{かん}へるこ

場^ばのこ^こと^と中^{ちゆう}田^{でん}乃^のゆ^ゆふ^ふ大^{だい}小^{せう}田^{でん}と^と容^{よう}る^る時^{とき}
 大^{だい}田^{でん}經^{けい}乃^の干^{かん}小^{せう}田^{でん}經^{けい}乃^の平^{へい}小^{せう}田^{でん}經^{けい}乃^の

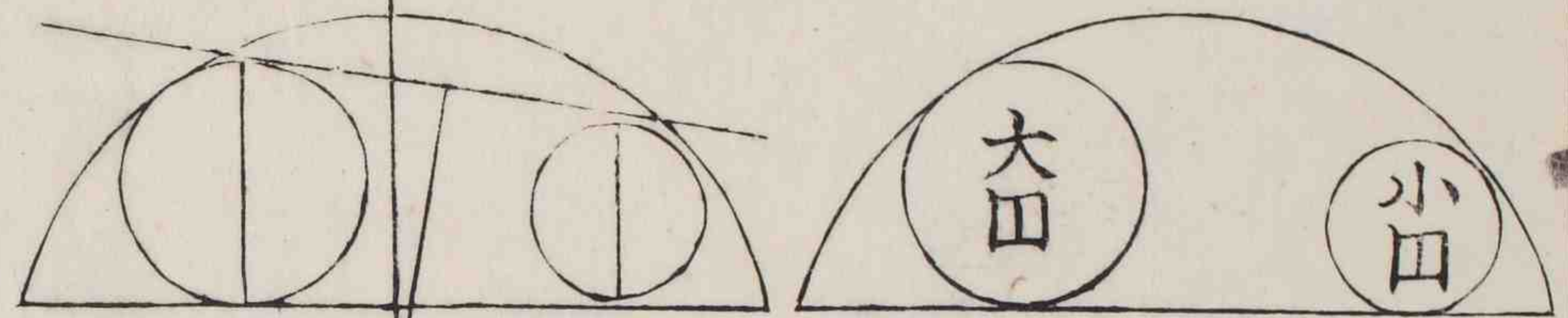
答



上^{うへ}乃^の大^{だい}田^{でん}中^{ちゆう}小^{せう}田^{でん}一^{いつ}ヶ^がと^と復^ふけ
 こ^この^の中^{ちゆう}心^{しん}も^もと^と下^{した}二^にヶ^がの^の小^{せう}田^{でん}中^{ちゆう}心^{しん}も^も圭^{けい}形^{けい}を^を
 保^{たも}つ^つこ^この^の中^{ちゆう}心^{しん}より^{より}圭^{けい}形^{けい}の^の中^{ちゆう}心^{しん}を^をた^たえ^えり^り引^ひこ

場^ばのこ^こと^と等^{とう}田^{でん}三^{さん}ヶ^がと^と中^{ちゆう}田^{でん}の^の内^{うち}容^{よう}を^を
 考^{かん}へ^へる^るこ^この^の中^{ちゆう}心^{しん}より^{より}圭^{けい}形^{けい}の^の中^{ちゆう}心^{しん}を^をた^たえ^えり^り引^ひこ
 り^り小^{せう}田^{でん}經^{けい}を^を同^{おな}

中^{ちゆう}田^{でん}三^{さん}ヶ^がの^の中^{ちゆう}心^{しん}より^{より}中^{ちゆう}心^{しん}と^と三^{さん}斜^{しゃ}を^を
 引^ひこ^この^の中^{ちゆう}心^{しん}より^{より}真^ま規^ぎの^の中^{ちゆう}心^{しん}を^をた^たえ^えり^り引^ひこ
 り^り小^{せう}田^{でん}の^の中^{ちゆう}心^{しん}を^を同^{おな}



角乃てく田額のうち小大田
小田で容大田より小田より
小田程を同

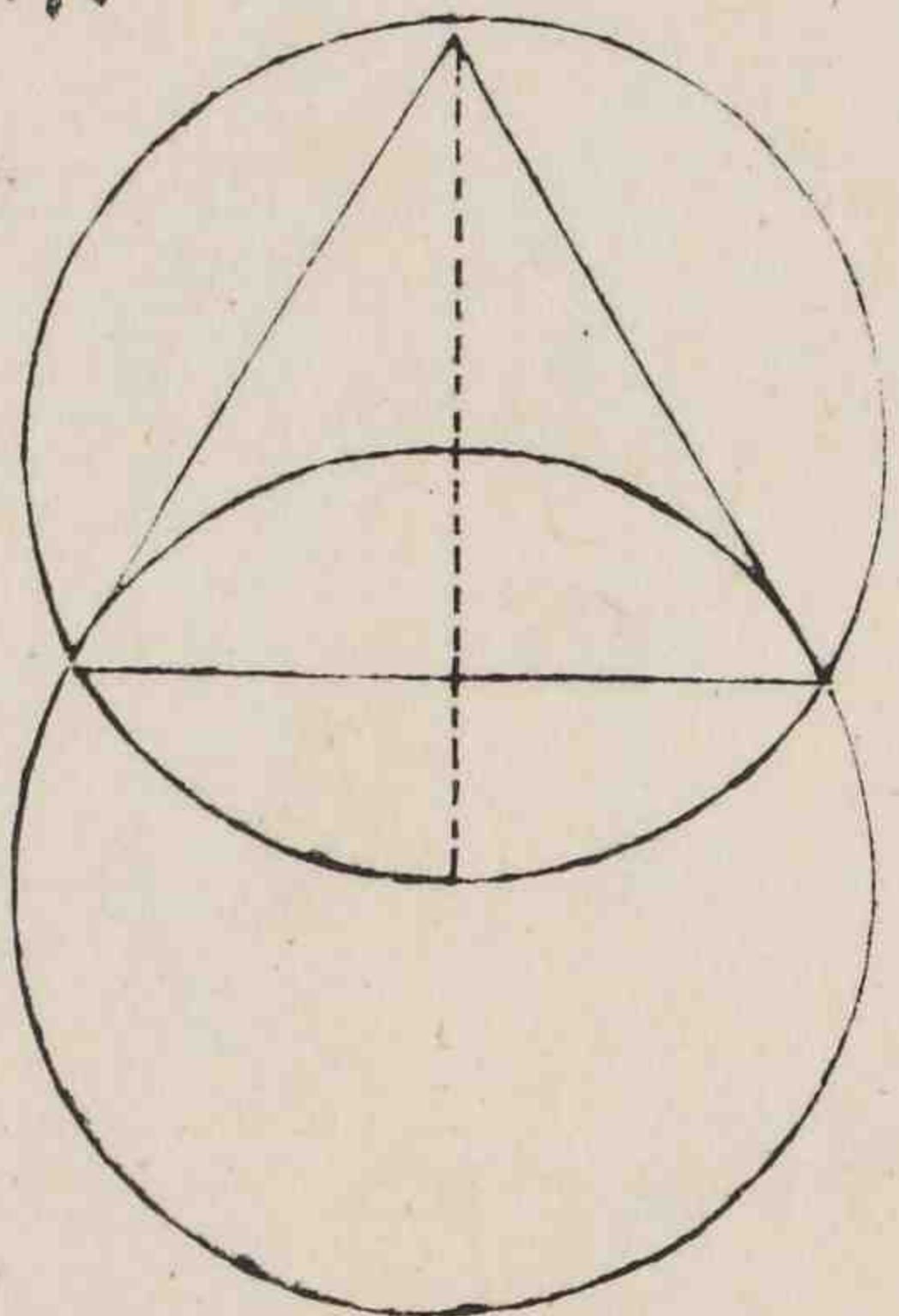
答

術玄の真矩とくけて田の正中
直線とくす大田小田乃同小
斜線とく直線とく合ふ所
外田の中心とするこみと見く
考へぬ

三 角 四 角

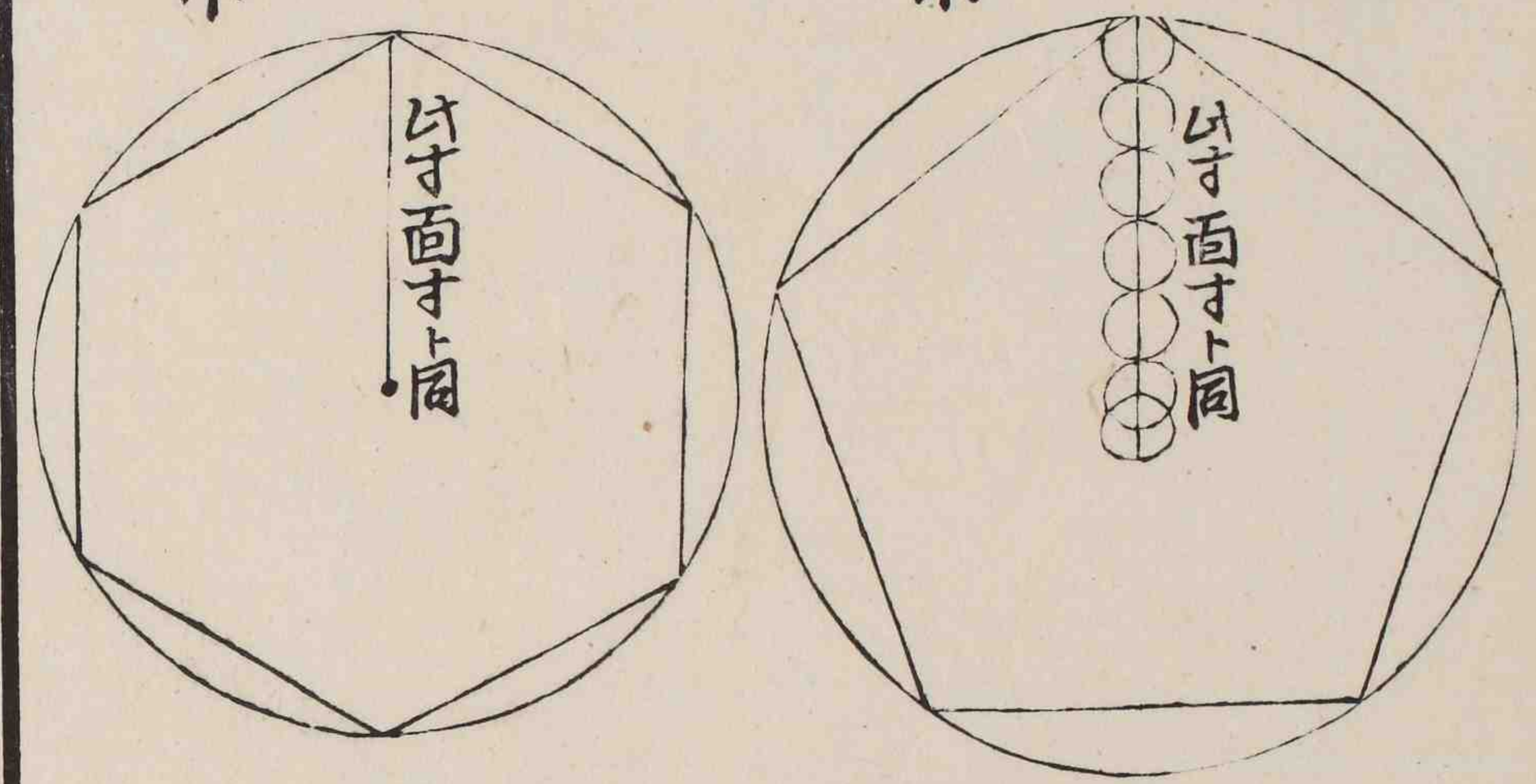
十

田規角と生する約法



法曰すて極めず田規とくく空田
と金ド中心と星とく星のあて下
の周小又田規とて空田と生すれ
稀遠とるを角とて角すて田規を
開て三角と生すよりく考へて
法曰空田の稀遠を極とて中心と
星とく又空田の心より極星と
十字の中心と田規とて空田と生す
と周と星極星のあて下と考へて

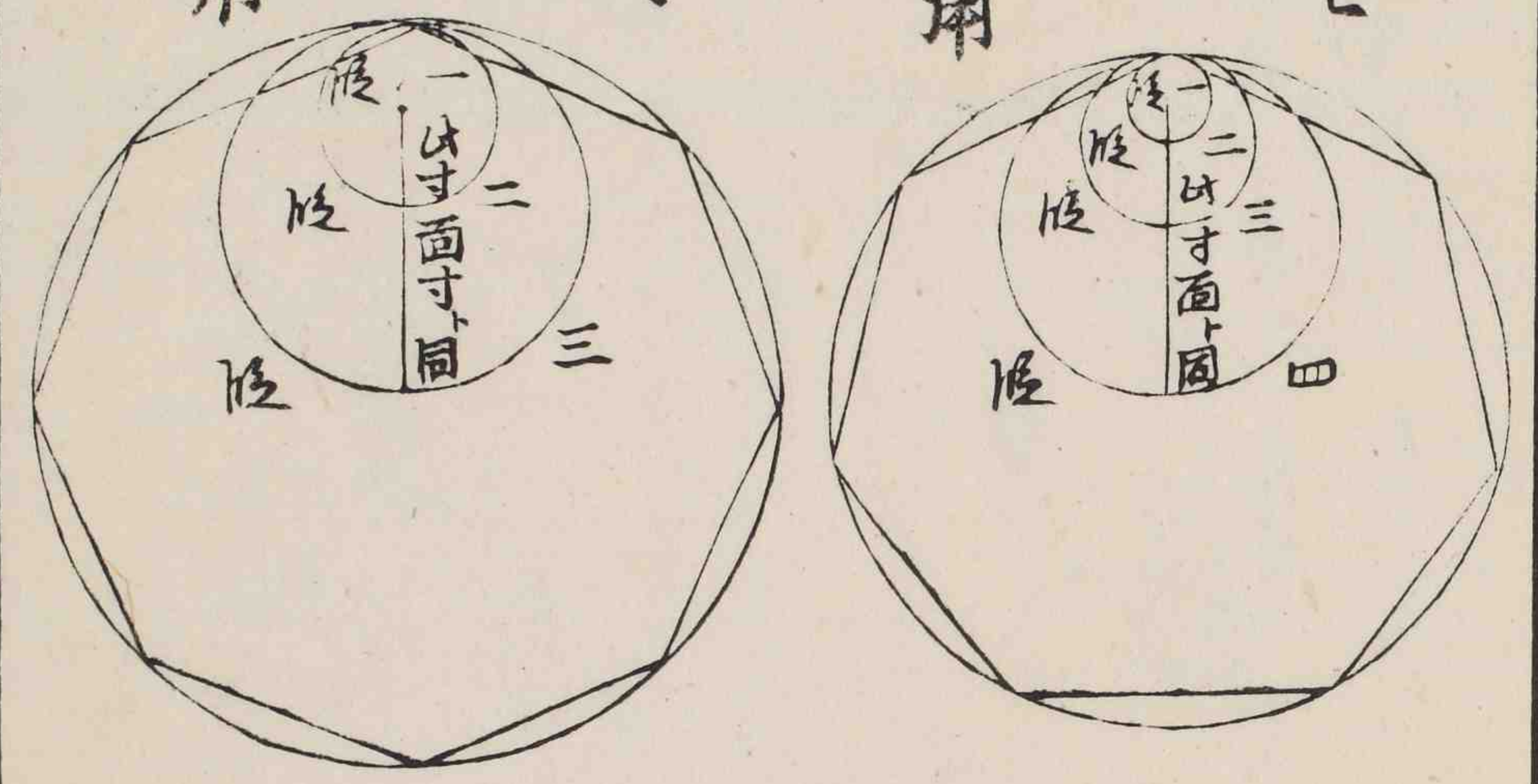
五 角 六 角



多田六ヶ事と堅小おるべきみヶ
半の長さ小田那紙ひききお田と
生一又多田六ヶ事の長さ小田規
とひきき面すところわ小田周乃
内紙わづればわ角とあるなり

田紙紙ひきき空田と生ドその
田規をりてすぶ小空田の周紙
わづればわ角とあるなり

七 角 八 角



一版空田と生と長さ田規と開て
二版空田と生と長さ田規と開て
田と生と長さ田規と開て
一版田の心より二版田周との長さ面と
一版田周乃内紙わづれば七角とあるなり
一版空田と生と長さ田規と開て
空田と生と長さ田規と開て
一版田の心より二版田周との
長さ面と長さ田規と開て
の内紙わづれば八角とあるなり